



ふくしまの重要文化財Ⅶ「法正尻遺跡の国指定重要文化財」オープニング（10月24日）



「ゴールデンウィークまほろんまつり」テレビ取材（5月6日）

年報 2010 の発刊によせて

館長 富田 孝志

指定管理者制度による平成 18 年度から平成 20 年度までの第 1 期 3 年間の運営を無事終了し、続く平成 21 年度からの第 2 期 5 年間も、財団法人福島県文化振興事業団が指定管理者として白河館の管理運営をしていくこととなりました。開館以来、当館の管理運営者として地道に積み上げてきた実績に対し、一定の評価を得られたことが、引き続き指定管理者としての責務を果たすことへつながったと考えています。来館者の方々をはじめとしてご支援・ご協力いただいた方々に改めて感謝いたします。

平成 21 年度の入館者数は 31,953 人でした。長引く景気の低迷が大きく影響して、県外などの一般利用者の落ち込みが目立ちました。一方、ホームページのアクセス数は平成 19 年度以降、毎年 4 万件台を維持しながら着実に伸びています。ここ数年、毎年のように大きな伸びを見せているデータベースへのアクセス数は 52 万件を超えました。中でも、遺跡データベースは前年の約 1.7 倍、文献データベースは約 2.3 倍と、大幅に増加しました。近年の歴史ブームなどの影響もありますが、当館が全国に先駆けて構築してきた文化財に関する膨大なデータベースが、あらためて内外からの高い評価を得ている証といえましょう。

収蔵資料の中では大きな話題がありました。本年度は、郡山市荒小路遺跡出土のハート形土偶が、9 月から 11 月にかけてイギリスの大英博物館で開催された「土偶展」に出展されました。収蔵資料では初めての海外公開となりました。

企画展は 4 回開催しました。このうち 7 月から 9 月にかけて開催した「ふくしま里帰り展」は新しい企画の展示で、県外に収蔵されている本県ゆかりの文化財を県民に広く知っていただくという趣旨で行ったものです。7 月から 9 月にかけて東京都教育委員会の協力により会津藩中屋敷、二本松藩上屋敷出土の資料を公開した「発掘されたふくしまの江戸藩邸」を開催しました。

当館収蔵の法正尻遺跡出土品 855 点（縄文時代中期の土器・石器等）が、平成 21 年 7 月 10 日に国の重要文化財に指定されました。これを記念して 10 月から平成 22 年 1 月に、指定文化財展「ふくしまの重要文化財Ⅶ 法正尻遺跡の国指定重要文化財」を開催しました。このほか、NHK 大河ドラマ「天地人」の放映にあわせ、福島県文化財センター白河館・福島県立博物館・福島県文化センターの三館連携企画事業を実施しました。このうち当館では 6～7 月に巡回企画展「慶長五年 直江兼続と白河口」を開催し、多くの歴史愛好家にご来館いただきました。

また、これまで 2 年に 1 度行ってきた古代製鉄を復元するイベント「古代の鉄づくり」を実施しました。古代の製鉄工人在産出したとされる銑鉄の産出を目指しました。今回も、多くの方々にたたら操業を体験していただきました。

本年度のおでかけまほろんは、24 校で開催し、700 名を超える生徒さんに地域の歴史学習や火おこしなどの体験をしていただきました。県民の方々の中にまほろんの仕事が着実に根付いてきていることを実感しています。これからも多くの方々に支えられながら、着実に歩み続けたいと考えています。

目 次

第1章 まほろんの概要……………	1
1 まほろんの業務……………	1
2 まほろんの沿革……………	1
3 平成21年度の主な行事……………	2
第2章 平成21年度の組織と予算……………	3
1 組織……………	3
2 予算……………	3
第3章 管理業務の実施及び利用状況……………	4
1 利用状況……………	4
1. 利用者数……………	4
2. 利用者の内訳と傾向……………	4
2 維持管理に関する業務……………	6
1. 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務……………	6
2. 施設・設備等の修繕状況……………	6
3. 備品・物品管理業務……………	6
3 文化財の収蔵・保管に関する業務……………	7
1. 収蔵資料……………	7
2. 資料貸し出し……………	7
3. 写真掲載等承認……………	7
4. 資料閲覧……………	8
4 文化財の活用に関する業務……………	9
1. 常設展示……………	9
2. 企画展示……………	11
3. 講演会・講習会……………	15
4. 体験学習……………	16
5 文化財に関する情報発信……………	19
1. ホームページによる情報発信……………	19
2. データベースによる情報提供……………	19
3. まほろん通信の発行……………	20
6 文化財に関する研修……………	21
1. 研修実施の概要……………	21
2. 研修実施状況……………	22
7 文化財に関する調査研究……………	24
1. 復元品製作研究事業……………	24
2. 研究紀要2009の発行……………	25
8 ボランティアの運営……………	25
1. 募集……………	25
2. 登録……………	25
3. 活動内容……………	25

4. 受け入れ体制……………	25
9 その他……………	26
1. 年報2009の発行……………	26
2. 運営協議会の開催……………	26
3. 自主文化事業……………	26
4. 地域連携事業……………	26
5. その他……………	26
第4章 まほろん施設の概要……………	27
第5章 まほろんの条例・規則……………	29
1 福島県文化財センター白河館条例……………	29
2 福島県文化財センター白河館条例施行規則……………	29
まほろんの利用案内……………	30

第1章 まほろんの概要

1 まほろんの業務

まほろん（福島県文化財センター白河館）は、福島県が設置した文化施設で、平成13年7月に開館し、来年度の平成23年7月には開館10周年を迎える。

まほろんは、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真や図面などの資料を収蔵・管理し、それを展示・体験学習等に活用するとともに、文化財を担当する市町村職員等の文化財研修、文化財に関する情報発信の役割を担っている。

福島県では、開館から平成17年度まで財団法人福島県文化振興事業団に業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入して、管理の業務を行う法人等を広く公募し、平成18年度から平成20年度まで（第1期）、平成21年度から平成25年度まで（第2期）の管理業務を財団法人福島県文化振興事業団が行っている。

指定管理者が行う業務は、以下のとおりである。

- 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 文化財の講演会、講習会等の開催に関すること。
- 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 白河館の維持管理に関すること。
- 上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

まほろんは、全国に先駆けて設立された県単位の埋蔵文化財収蔵保管施設で、さらに文化財を活用する施設でもある。「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見

て・触れて・考え・学ぶ”体験型ミュージアムを目指している。

2 まほろんの沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団が管理運営委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人到達



まほろんイベント「夏まつり」

平成 21 年 4 月 1 日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」
として福島県より財団法人福島県文化振興事
業団が管理運営委託（平成 26 年 3 月 31 日
まで）

3 平成 21 年度の主な行事

平成 21 年 3 月 14 日～5 月 17 日

収蔵資料展「新編陸奥国風土記 巻之七 信夫
郡」

平成 21 年 5 月 2 日～5 月 6 日

ゴールデンウイークまほろんまつり

平成 21 年 6 月 13 日～7 月 12 日

福島県文化財センター白河館・福島県立博
物館・福島県文化センター三館連携企画事業
巡回企画展「慶長五年 直江兼続と白河口」

平成 21 年 7 月 18 日～9 月 13 日

ふくしま里帰り展「発掘されたふくしまの江
戸藩邸」

平成 21 年 7 月 26 日 まほろん夏まつり

平成 21 年 8 月 6 日

まほろん収蔵の郡山市荒小路遺跡出土の土
偶を大英博物館及び東京国立博物館で開催の
「土偶展」へ貸出（平成 22 年 3 月 31 日返却）

平成 21 年 10 月 1 日～10 月 7 日

ふくしま里帰り展「発掘されたふくしまの江



まほろんイベント「古代の鉄づくり」

戸藩邸」巡回展（会津若松市文化センター）

平成 21 年 10 月 17 日～11 月 23 日

ふくしま里帰り展「発掘されたふくしまの江
戸藩邸」巡回展（二本松市歴史資料館）

平成 21 年 10 月 24 日～平成 22 年 1 月 31 日

指定文化財展「ふくしまの重要文化財Ⅶ 法
正尻遺跡の国指定重要文化財」

平成 21 年 11 月 7 日・8 日

まほろんイベント「古代の鉄づくり 製鉄炉
操業」

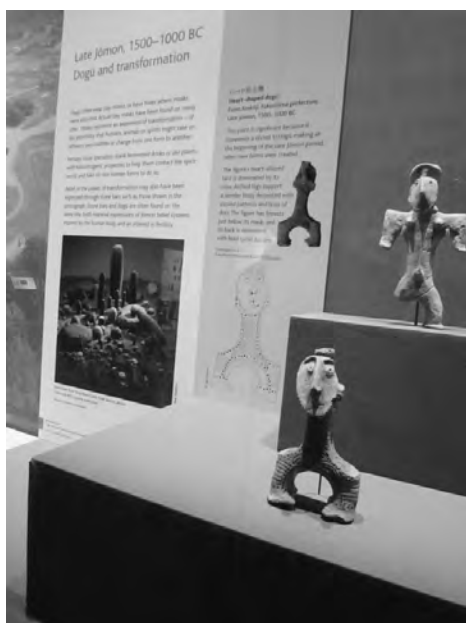
平成 21 年 12 月 6 日

まほろんイベント「餅つき大会」

平成 22 年 2 月 14 日 まほろん冬まつり

平成 22 年 3 月 13 日～5 月 16 日

収蔵資料展「新編陸奥国風土記 巻之八 宇多
郡」



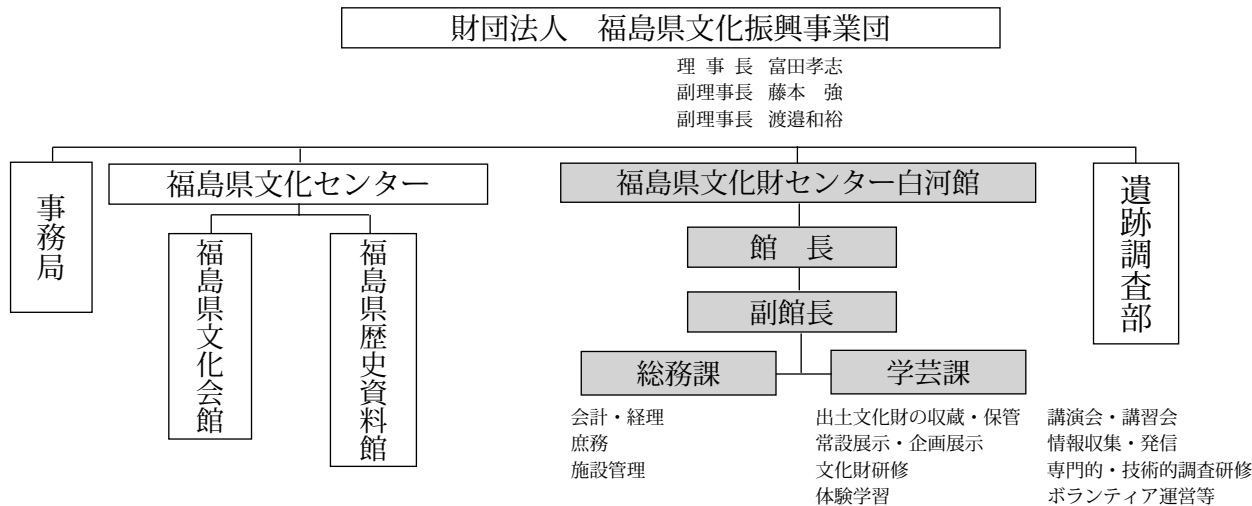
大英博物館で開催された「土偶展」



まほろんイベント「餅つき大会」

第2章 平成21年度の組織と予算

1 組 織



職員名簿

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	藤 本 強	主任学芸員	能登谷 宣 康
副 館 長	吉 田 豊 吉	主任学芸員	菅 原 祥 夫
総務課	課長（兼務）	主任学芸員	大河原 勉
	主 幹	主任学芸員	大 波 紀 子
	副主査	主任学芸員	大 山 孝 正
	臨時事務補助員	副主任学芸員	丹 治 篤 嘉
	休日等物品販売補助員	副主任学芸員	轡 田 克 史
学芸課	課長心得	副主任学芸員	山 田 英 明
	主 幹	アテンダント	岡 田 百合恵
	専門学芸員	アテンダント	八 島 千 夏
	専門学芸員	アテンダント	大 戸 若 菜
	専門学芸員	アテンダント	岸 波 理 恵
		アテンダント	沼 田 紗 貴
		職員総数	24名

平成22年3月31日現在

2 予 算

管理運営費会計

<収入>

・指定管理者委託料	233,699,000 円
・雑収入	82,630 円
・合計	233,781,630 円

<支出>

・文化財センター白河館管理運営費	234,088,834 円
・合計	234,088,834 円

物品販売会計

<収入>

・事業収入（物品販売収入）	5,007,835 円
・雑収入	77,773 円
・合計	5,085,608 円

<支出>

・事業費	4,608,461 円
・租税公課費	169,943 円
・合計	4,778,404 円

第3章 管理業務の実施及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

平成21年度の総利用者数は37,167名（20年度47,032名）で、その内訳は入館者が31,953名（20年度33,007名）、福島県歴史資料館や二本松市歴史資料館、会津若松市文化センターでの移動展・巡回展、福島県青少年会館30周年「子ども未来フェスタ」への参加や館外文化財研修、小中学校など館外体験学習等の館外利用者が5,214名（20年度14,025名）であり、入館者、館外利用者ともに前年度より減少した。

館外利用者の大幅な減少は、20年度にはあった県立博物館の移動展に伴う利用者数が今年度はなかったことによる。

入館者数については、前年と比較するとゴールデンウィークには前年を上回る来館者を迎えることができたが、それ以外の4月～6月は低調で前年度の団体入館者数が5月で約1,000名減、6月で約1,500名減と大きく影響した。その原因としては長引く不況のあおりによる旅行団体数の減少に加え、新型インフルエンザへの警戒心から実際にキャンセルなども相次ぎ、学校・子ども会等の団体活動の自粛があった。9月～11月に盛り返すことは出来たが、最終的に前年度比1,054名の減少となった。

これらの入館者減少対策として、新たに職員



新白河駅東口「観光案内板」への表示追加

全員手分けして県南地域の教育機関や学校、県南・県中のホテルや温泉施設などへ直接訪問しPR活動を行い、団体利用の誘致を図った。また、白河市内の誘導案内板の設置数を増やし、新幹線新白河駅東口の「観光案内看板」への白河館の表示追加、マスコミへのPR強化などの方策を講じた。

2. 利用者の内訳と傾向

（1）地域別利用状況

館利用者の県内、県外比率は、県内来館者82%（うち白河市36%）、県外来館者18%であり、前年度より県内利用者が約4%増加している。

（2）年齢層別利用状況

児童・生徒（高校生以下）が36%を占める。

月別入館者数

	平成21年度							平成20年度	
	開館日数	幼児	小中学生	高校生	一 般	入館者数	館外利用者数	入館者数	館外利用者数
4月	26	109	1,153	16	1,192	2,470	77	2,759	6,608
5月	27	203	1,128	28	1,728	3,087	167	3,919	3,990
6月	25	132	1,173	35	2,391	3,731	547	4,656	53
7月	29	311	1,084	25	2,573	3,993	1,144	3,840	277
8月	30	301	929	36	2,282	3,548	910	3,736	145
9月	26	137	960	12	2,087	3,196	106	2,682	257
10月	27	268	1,292	122	2,196	3,878	1,008	3,110	2,179
11月	24	109	464	3	2,019	2,595	1,219	2,231	374
12月	23	103	190	5	1,102	1,400	20	1,549	73
1月	24	99	171	12	865	1,147	0	1,005	69
2月	23	136	407	25	756	1,324	12	1,671	0
3月	26	126	256	56	1,146	1,584	4	1,849	0
合計	310日	2,034人	9,207人	375人	20,337人	31,953人	5,214人	33,007人	14,025人

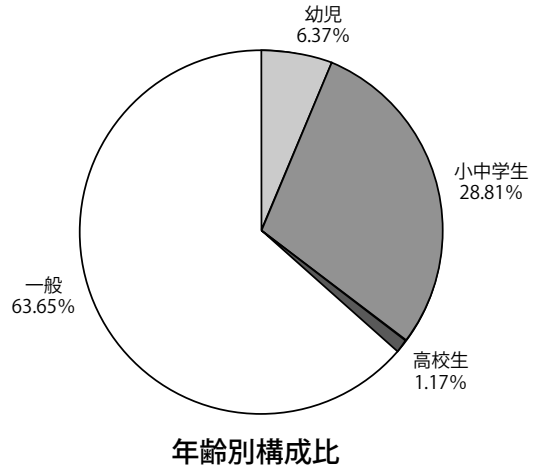
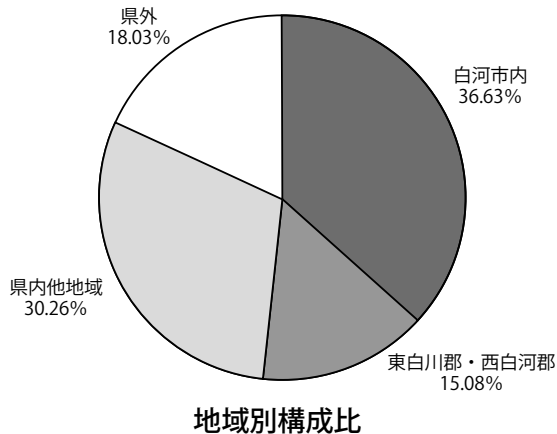
前年度より約6%の減少となっており、前述のとおり学校関係・子ども会の団体利用減少によると考えられる。

(3) 団体利用状況と傾向

団体利用の総数は団体数が328団体(20年度347団体)、団体来館者数は12,515名(20

年度12,996名)とともに前年より減少している。利用の内訳としては、小学校などの学校関係の利用が総数の39%を占め、前年度が44%であることから前年度のとおり団体活動の自粛の影響が見受けられる。

ただし、学校関係の利用比率減少のほか、生



団体利用状況

団 体			平成 21 年度													平成 20 年度
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計
学校関係	幼稚園・保育園	園数			1	1			2				1		5	9
		入館者数			48	78			88				13		227	523
	小学校	学校数	13	14	14	5	1	13	11	4	1	1			78	94
		入館者数	694	606	919	396	21	679	793	273	4	40	210		4,635	4,674
	中学校	学校数	3	1	1	3		3	4	3	1				19	24
		入館者数	265	34	30	107		79	178	39	14				746	858
	高等学校	学校数				1			2	1				1	5	7
		入館者数				5			125	17				41	188	210
	養護学校	学校数				1			1	1	1				4	2
		入館者数				33			7	5	11				56	76
大学	学校数					1	1		2					4	5	
	入館者数					39	22		57					118	176	
小中高PTA （保護者のみ）	学校数				1									1	2	
	入館者数				17									17	46	
小中高PTA （親子レク等）	学校数			2	1	2	3	4			1			13	8	
	入館者数			123	39	182	355	339			45			1,083	1,019	
生涯学習関係	研究会	会数	1	4				2	1	2				1	11	5
		入館者数	41	74				95	15	166				17	408	214
	子ども会	会数	1	1	1	5	4				1	1		1	15	19
		入館者数	25	25	17	176	125				16	16		12	412	870
	公民館等	館数	1	1	4	3	6	5	5	7	1		3		36	30
		入館者数	30	16	58	85	253	122	312	136	20		118		1,150	782
社会福祉関係	福祉施設・デイ ケアサービス	団体数	1	1	2	1			1	1					7	12
		入館者数	15	30	29	30			20	12					136	317
文化団体関係	資料館等	館数			1	1			1						3	3
		入館者数			18	24			43						85	90
	歴史研究	団体数	1			2		1	3	3				1	11	9
		入館者数	6			42		40	90	54				33	265	163
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数			1	3	4		2	3	3	1			17	8
		入館者数			33	143	128		19	34	49	27			433	197
その他	その他	団体数	7	2	15	15	4	9	17	17	6	2	2	3	99	110
		入館者数	148	44	416	485	73	203	399	406	213	21	48	100	2,556	2,781
合計	団体数	28	24	42	43	22	37	54	44	14	6	7	7	328	347	
	団体入館者数	1,224	829	1,691	1,660	821	1,595	2,428	1,199	327	149	389	203	12,515	12,996	
総入館者数		2,470	3,087	3,731	3,993	3,548	3,196	3,878	2,595	1,400	1,147	1,324	1,584	31,953	33,007	
団体利用者の割合		49.55%	26.85%	45.32%	41.57%	23.14%	49.91%	62.61%	46.20%	23.36%	12.99%	29.38%	12.82%	39.17%	39.37%	



団体利用の様子（勾玉づくり）

生涯学習関係では子ども会活動での利用が前年の半分程度の利用者数であったが、研究会（前年比194名増）と公民館等（前年比368名増）、行政機関関係（前年比236名増）と昨年からの地道なPR活動が実を結び、結果として現れたものと思われる。

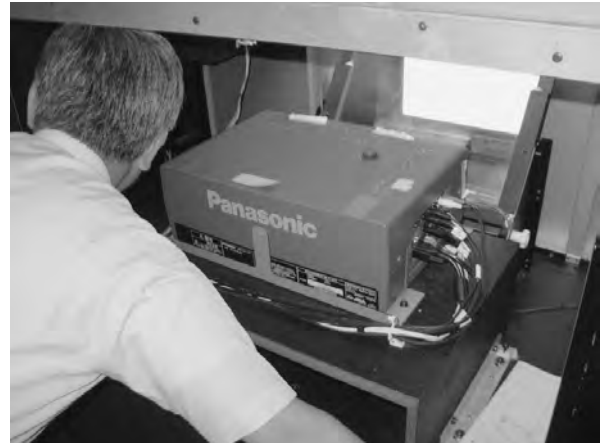
これまで旅行関係利用の主流であった付近の温泉施設利用者の来館は、引き続き減少の一途をたどっており、20年秋以降の景気低迷が大きく影響しているものと推察される。

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務仕様書」に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 空調設備点検業務／山田設備工業(株)
- (2) 消防設備保守点検業務／大槻電気通信(株)
- (3) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務／(株)ハイン
- (4) 自動ドア保全業務／昭和建産福島販売(株)
- (5) 自家用電気工作物保安管理業務／(有)メンテナンス東北
- (6) 展示用及び講堂用A V機器保守点検業務／(株)オリエンタル・エージェンシー
- (7) 植栽管理業務／(有)永野造園
- (8) 清掃業務／タイセークリーン(株)
- (9) 警備業務／福島総合警備保障(株)
- (10) 電話設備等保守点検／(有)テレメディア東北



A V機器のメンテナンス

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 屋外機ガスヒートポンプ 撮影室空調機修理（21年6月16日）
- (2) 一般駐車場入口脇 サクラ3本 ワイヤ交換（21年7月29日）
- (3) 展示準備室 印刷機修理（21年10月2日）
- (4) 陸屋根コンクリート剥離修繕（21年12月15日）
- (5) 公用車A Dバン スロットルチェンバー交換（22年1月23日）
- (6) 消防設備 非常灯修繕（22年3月15日）
- (7) 雑排水槽内フロートスイッチ交換（22年3月15日）
- (8) 機械室外壁クラック修繕（22年3月16日）
- (9) 陸屋根 屋外機防護柵 鉄骨塗装（22年3月24日）
- (10) 屋外展示造形物（縄文時代の家、前方後円墳、平安時代の製鉄炉、室町時代の館）の修繕（22年3月26日）

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について、適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

(箱)

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合 計
一般収蔵庫	41,052	2,936	900	514	10	45,412
特別収蔵庫	461					461
合 計	41,513	2,936	900	514	10	45,873

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大 66,000 箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物

(点)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平 21.4.1 ～平 22.3.31	株式会社日本フットボールヴィレッジ（常設展示）	楢葉町美シ森 B 遺跡出土弥生土器	3
平 21.4.1 ～平 22.3.31	福島県立博物館（常設展示）	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1025
平 21.4.1 ～平 22.3.31	須賀川市立博物館（常設展示）	須賀川市梅田横穴古墳群出土須恵器	1
平 21.4.1 ～平 22.3.31	東北電力株式会社原町火力発電所（常設展示）	南相馬市鳥打沢 A 遺跡出土土師器・須恵器・羽口ほか	24
平 21.4.1 ～平 22.3.31	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館（常設展示）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
平 21.4.1 ～平 22.3.31	独立行政法人国立科学博物館（常設展示）	飯館村日向南遺跡ほか出土縄文土器	8
平 21.4.1 ～平 22.3.31	郡山市教育委員会（大安場史跡公園常設展示）	郡山市弥明遺跡出土石器	5
平 21.4.1 ～平 21.5.31	文化庁（重要文化財の新指定に係る調査）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	285
平 21.4.10 ～平 21.6.5	福島県立博物館（特集展「直江兼統と会津の戦国武将」）	会津若松市神指城跡出土漆器ほか	11
平 21.5.26 ～平 21.8.6	八戸市博物館（特別展「土偶展—東北の北と南—」）	石川町七郎内 C 遺跡ほか出土土偶	22
平 21.7.3 ～平 21.8.26	福島県歴史資料館（まほろん連携収蔵資料展「摺上川歴史探訪」）	福島市弓手原 A 遺跡ほか出土縄文土器ほか	76
平 21.8.6 ～平 22.3.31	文化庁（大英博物館「土偶展」・東京国立博物館「国宝土偶展」）	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
平 21.9.4 ～平 22.3.31	福島県立博物館（常設ポイント展「古代の鉄生産」）	南相馬市鳥打沢 A 遺跡ほか出土通風管ほか	37
平 21.9.10 ～平 21.11.26	福島県立博物館（企画展「岡本太郎の博物館・はじめる視点～博物館から覚醒するアーティストたち」）	三春町柴原 A 遺跡出土土偶ほか	44
平 21.9.17 ～平 21.12.11	南相馬市博物館（企画展「相馬の馬」）	南相馬市大船迫 A 遺跡出土墨書土器	1
平 21.9.10 ～平 21.11.26	福島県立博物館（特集展「平成新指定史跡展覧—未来へつなぐ福島」）	いわき市大猿田遺跡出土陶器ほか	10
平 22.2.13 ～平 22.3.30	財団法人郡山市文化・学び振興公社（大安場史跡公園企画展「古代の陶器—緑色の平安ブランド—」）	郡山市正直 C 遺跡出土灰釉陶器ほか	10
		合 計	1566

(2) 模型及びレプリカ

(点)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平 21.4.28 ～平 21.4.30	社団法人白河市青年会議所（「大昭和祭り」出展のため）	テレビ（常設展示「昭和 40 年代の食卓」展示品）	1
平 21.6.26 ～平 22.3.19	福島県立博物館（常設テーマ展「収蔵・寄託 県指定考古資料展」）	双魚佩復元品ほか	4
平 21.9.4 ～平 22.3.31	福島県立博物館（常設ポイント展「古代の鉄生産」）	梵鐘復元品ほか	9
平 21.9.4 ～平 21.10.1	福島県立博物館（常設ポイント展「古代の鉄生産」）	南相馬市長湊遺跡製鉄炉跡写真ほか	20
平 21.9.4 ～平 21.10.1	福島県立博物館（常設ポイント展「古代の鉄生産」）	新地町向田 E 遺跡全景写真ほか	2
平 21.10.4 ～平 21.10.20	矢祭町宝坂神社（抜穂祭にて使用）	石包丁復元品（体験学習器材）	3
平 22.1.19 ～平 22.3.31	福島県立博物館（特集展「平成新指定史跡展覧—未来へつなぐ福島」）	白河市野地久保古墳復元模型	1
		合 計	40

3. 写真掲載等承認

(点)

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平 21.4.1	郡山市観光協会田村支部（『田村町観光案内マップ』）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真	1
平 21.4.22	浅間縄文ミュージアム（企画展「土偶」展示パネル）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真	1
平 21.4.29	白河市教育委員会（『広報白河』）	白河市一里段 A 遺跡出土石器写真ほか	2
平 21.4.30	株式会社三省堂（『小学校 国語』）	常設展示「古墳時代の食卓」写真	1
平 21.5.22	いわき市教育委員会（パンフレット『古代のいわき』）	野外展示「奈良時代の倉庫」写真ほか	7
平 21.6.23	京セラ株式会社労働組合（組合機関誌『REIMEI』）	野外展示「縄文時代の家」写真ほか	4
平 21.7.8	小野町教育委員会（郷土資料館企画展「発掘！こまちダム展」展示パネル）	小野町沢目木 B 遺跡遺構写真ほか	30
平 21.7.8	財団法人鉄の歴史村地域振興事業団（特別展「古代の人々のくらし」展示パネル）	常設展示「弥生時代ブース」写真ほか	5
平 21.7.14	朝日新聞出版（『週刊マンガ日本史』第 4 号）	常設展示「奈良時代の家 かまど」写真	1
平 21.7.26	房州堂（郷土出版社『図説 安房の歴史』）	「多賀城に向かう軍団兵士」写真	1
平 21.7.26	長岡市立科学博物館（馬高・三十稲場遺跡ガイダンス施設展示パネル）	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土土器写真	2
平 21.8.13	株式会社 SAGA DESIGN SEEDS（私家版詩集『わが会津』）	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土土器写真	1
平 21.8.23	南相馬市博物館（企画展図録『相馬の馬』）	南相馬市大船迫 A 遺跡出土墨書土器写真	1
平 21.9.1	福島県立博物館（常設ポイント展「古代の鉄生産」展示パネル）	南相馬市長湊遺跡製鉄炉跡写真ほか	24
平 21.9.8	福島県立博物館（常設ポイント展「古代の鉄生産」展示パネル）	新地町向田 E 遺跡全景写真ほか	2

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平 21.9.16	福島県立博物館（企画展「岡本太郎の博物館・はじめる視点～博物館から覚醒するアーティストたち」の展示パネル）	三春町柴原 A 遺跡出土土偶写真ほか	44
平 21.9.16	白河市歴史民俗資料館（『広報白河』）	白河市筑内古墳群出土馬具写真ほか	2
平 21.9.26	常陸大宮市歴史民俗資料館（企画展「再埋葬と人面付土器のふしぎ」展示パネル・リーフレット）	郡山市徳定 A 遺跡出土土器写真	1
平 21.10.6	株式会社日本標準（『楽しく調べる日本の歴史』第 1 巻）	常設展示「古墳時代の食卓」写真	1
平 21.11.3	株式会社悠工房（古野教育図書『中学 教科書の確認 歴史』）	三角緑神獣鏡復元品写真	1
平 21.11.3	常陸大宮市歴史民俗資料館（企画展「再埋葬と人面付土器のふしぎ」展示パネル・リーフレット）	須賀川市牡丹平遺跡出土人骨写真（所蔵者須賀川市立博物館の許可を得て転載）	1
平 21.11.10	株式会社帝国書院（『社会科 中学生の歴史－日本の歩みと世界の動き－』）	三角緑神獣鏡復元品写真ほか	2
平 21.11.10	株式会社マルチクリエイト（光文書院『社会科資料集』）	野外展示「奈良時代の家」写真	1
平 21.11.25	猪苗代町教育委員会（『広報いなわしろ』ほか）	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土土器写真ほか	2
平 21.12.19	財団法人福島県教育会館（『夏休みの友』）	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土土器写真	1
平 22.1.20	須賀川市歴史民俗資料館（常設展示パネル）	縄文時代の石器復元品写真	1
平 22.1.29	カズ企画（あかね書房『人物や文化遺産で読み解く日本の歴史』第 1 巻）	常設展示「古墳時代ブース」写真	1
平 22.2.9	県内研究者（発表要旨集「フォーラム火焰街道往来 2010」）	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土土器写真ほか	3
平 22.2.9	株式会社ぎょうせい（『日本の美術 527』）	郡山市荒小路遺跡出土土偶写真ほか	3
平 22.2.11	文化庁（『発掘調査のてびき 集落遺跡発掘編』）	郡山市正直 C 遺跡遺構写真	3
平 22.2.11	財団法人郡山市文化・学び振興公社（企画展「古代の陶器－緑色の平安ブランドー」パンフレット）	郡山市正直 C 遺跡出土陶器ほか	10
平 22.2.24	地底の森ミュージアム（企画展「洞穴遺跡の考古学」展示図録）	西会津町塩喰岩陰遺跡出土土器写真ほか	24
平 22.3.31	横浜市歴史博物館（企画展「古墳時代の生活革命－5 世紀後半・矢崎山遺跡－」図録・展示パネル）	常設展示「古墳時代ブース」写真	1
		合 計	185

4. 資料閲覧

（1）遺 物

（点）

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平 21.5.29	県外大学生（個人研究の資料調査）	相馬市大森 A 遺跡出土木製品	16
平 21.6.6	福島県歴史資料館（展示の事前調査）	福島市弓手原 A 遺跡ほか出土土器ほか	84
平 21.7.2	県外研究者（調査研究のため）	泉崎村関和久官衙遺跡出土瓦	60
平 21.7.12	県外研究者（調査研究のため）	会津若松市屋敷遺跡ほか出土土器	167
平 21.8.19	福島県立博物館（展示の事前調査）	南相馬市鳥打沢 A 遺跡ほか出土通風管ほか	63
平 21.9.1	県外大学院生（修士論文作成のため）	天栄村前原 A 遺跡ほか出土土器	1046
平 21.9.12	南相馬市教育委員会（報告書作成のため）	相馬市善光寺遺跡ほか出土土器	58
平 21.10.15	県外大学院生（修士論文作成のため）	白河市筑内古墳群ほか出土土器	59
平 21.11.20	県外研究者（調査研究のため）	矢吹町弘法山古墳群出土はばき	1
平 21.11.21	県外研究者（シンポジウムのため）	本宮市高木遺跡ほか出土土器	55
平 21.11.26	福島県立博物館（展示の事前調査）	いわき市大猿田遺跡出土陶器ほか	10
平 21.12.4	三鷹市教育委員会（資料の比較のため）	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土土器	1
平 21.12.8	県外研究者（調査研究のため）	白河市筑内古墳群出土勾玉ほか	335
平 21.12.17	当事業団遺跡調査部職員（報告書作成のため）	会津坂下町能登遺跡ほか出土土器	1415
平 21.12.26	県外大学生（卒業論文作成のため）	会津美里町冨宮西遺跡出土石器	7
平 22.1.13	県外大学院生（調査研究のため）	南相馬市鳥打沢 A 遺跡ほか出土鉄塊ほか	8
平 22.1.20	当事業団遺跡調査部職員（報告書作成のため）	須賀川市沢又山遺跡ほか出土通風管ほか	104
平 22.2.4	県外研究者（調査研究のため）	泉崎村関和久官衙遺跡ほか出土瓦	92
平 22.2.9	地底の森ミュージアム（展示の事前調査）	西会津町塩喰岩陰遺跡出土土器ほか	24
平 22.3.3	県外研究者（調査研究のため）	新地町双子遺跡出土丸木舟	2
平 22.3.31	県外研究者（調査研究のため）	南相馬市長湊遺跡出土炉壁ほか	11
		合 計	3618

（2）その他

（点）

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平 21.6.9	相馬市教育委員会（発掘調査の参考資料として）	相馬市古川尻 A 遺跡トレンチカードほか	2
平 21.7.16	国見町教育委員会（発掘調査の参考資料として）	国見町阿津賀志山防塁トレンチカード	1
平 21.8.19	福島県立博物館（常設ポイント展「古代の鉄生産」事前調査）	梵鐘復元品ほか	9
平 21.9.1	有限会社ティーアンドティー（人形製作の参考資料として）	多賀城に向かう軍団兵士模型	1
平 21.9.17	県外大学生（卒業論文作成のため）	『真野ダム関連遺跡発掘調査報告 14』ほか	3
平 21.11.20	県外研究者（調査研究のため）	はばき復元品ほか	4
平 22.3.5	有限会社ティーアンドティー（人形製作の参考資料として）	武装した軍団兵士模型	1
		合 計	21

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「象徴展示」（磐梯町法正尻遺跡）
- ②「探してみよう福島文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」（パネル展示）
- ④「ふくしまの宝物」

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」
サブコーナー〈話題の遺跡〉

⑤「みんなの研究ひろば」

⑥「クイズ福島歴史発見」

⑦「のぞいてみよう福島の遺産」

⑧「しらかわ歴史名場面」

⑨映像展示

「ふくしまの文化財ーいのちのかたちー」

(2) 展示

平成21年度の展示実績は、別表一覧のとおりである。年度当初に作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業等との関連を持たせた内容とした。

1) しらかわ歴史名場面

「しらかわ歴史名場面」は、入館者に白河地方の文化財に親しんでもらうため、さらに地域の生涯学習関係者と連携して、各市町村の発掘調査資料を中心に、話題性や地域性のある資料を積極的に掘り起こし、フレキシブルな展示を企画している。本年度は、3遺跡について紹介した。

常設展展示一覧

コーナー	タイトル	開催期間	所有者	備考
しらかわ歴史名場面	矢祭町岡野田遺跡	平成21年6月10日～ 平成21年10月6日	矢祭町教育委員会	
	棚倉町松並平遺跡	平成21年10月22日～ 平成22年1月30日	棚倉町教育委員会	
	西郷村茅窪遺跡	平成22年2月1日～ 平成22年3月31日	西郷村教育委員会	平成22年度も継続
みんなの研究ひろば	猪苗代湖畔に消えた 後期旧石器時代終末期の人々	平成21年4月1日～ 平成21年7月30日	学校法人石川高等学校考古学部	
	1 南相馬市立原町第一中学校 社会科の総合的な学習	平成21年8月11日～ 平成22年1月23日	南相馬市立原町第一中学校生徒たち	
	まほろんイベント 「古代の鉄づくり」報告	平成22年2月1日～ 平成22年3月31日	館蔵	平成22年度も継続
	2 まほろんイベント 「古代の鉄づくり」報告	平成21年4月1日～ 平成21年4月30日	館蔵	
話題の遺跡	「しのぶもちずり」に挑戦	平成21年5月1日～ 平成22年3月31日	第8期森の塾生	
	二本松市二本松城跡	平成21年5月21日～ 平成21年10月15日	二本松市教育委員会	
	郡山市妙音寺遺跡	平成21年10月22日～ 平成22年1月31日	郡山市教育委員会	
エントランス 『ふくしまの宝物』	南相馬市浦尻貝塚（国指定史跡）	平成22年2月1日～ 平成22年3月31日	南相馬市教育委員会	平成22年度も継続
	白河市道南遺跡	平成21年6月12日～ 平成21年8月9日	館蔵	
	玉川村辰巳城遺跡	平成21年8月9日～ 平成21年12月15日	館蔵	
	三春町仲平遺跡	平成21年12月16日～ 平成22年1月30日	館蔵	
	玉川村栗木内遺跡	平成22年2月1日～ 平成22年3月31日	館蔵	



展示替え

◇矢祭町岡野田遺跡

岡野田遺跡は、久慈川流域には数少ない縄文時代中期の集落跡で、東北南部と関東北東部の縄文文化の接点を知ることができる。

◇棚倉町松並平遺跡

松並平遺跡は、平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が数多く発見され、東白川郡内では初めての大規模集落跡調査例である。

◇西郷村茅窪遺跡

白河市に隣接する西郷村茅窪遺跡は、縄文時代前期から後期にかけての集落遺跡であり、北関東に隣接する立地条件から、北関東と東北南部の縄文文化を含む遺跡である。

2) みんなの研究広場

「みんなの研究広場」は、一般県民の文化財等に関する研究を積極的に紹介することで、県民と歴史・文化財等が近い存在であることを印象付ける特徴的コーナーであり、児童・生徒、教育関係者の調査研究成果を積極的に展示し、併せて当館が行っている実技講座や復元研究の成果も展示する。

◇南相馬市立原町第一中学校

選択社会科を「昔の人々の知恵に学ぶ体験型の授業」として縄文の布（アングイン編み）や弥生時代の石包丁づくりを行い、展示では完成品や研究内容をまとめた資料を展示した。

このほかに、第8期森の塾生による「しのぶもちずりに挑戦」やまほろんイベント「古代の鉄づくり」報告の研究成果を展示した。

3) 話題の遺跡

県内の文化財情報を積極的に収集し、話題性

に富んだ新鮮な展示を行っている。特に企画展と関連した内容とし、展示室総体が連携するように努めるとともに、関係自治体や生涯学習施設と連携して展示内容の充実を図っている。

◇二本松市二本松城跡

ふくしま里帰り展「発掘されたふくしまの江戸藩邸」に関連して、丹羽氏の居城である二本松城跡からの出土品を展示した。

◇郡山市妙音寺遺跡

まほろん指定文化財「法正厩遺跡の国指定重要文化財」と関連して、縄文時代中期の集落遺跡である郡山市妙音寺遺跡の縄文土器を展示した。

◇南相馬市浦尻貝塚

浜通り北部の代表的な貝塚で、平成18年1月に国の史跡に指定されており、中通り地方南部では紹介例も少なく、初めてまほろんにて展示した。

4) ふくしまの宝物

まほろんに所蔵されている出土品の中から、学芸員が紹介するコーナーである。当館学芸員が交代で、本年度、4回にわたり宝物を展示した。

(3) 展示資料の破損等

◆常設展示

来館者の接触によると思われる展示物（レプリカ）の軽微な破損が見られた。特に、めぐみの森のクマザサの減少が目立つ。

◆野外展示

経年劣化による展示造形物の床・壁・柱など



古墳時代の食卓

に生じた隙間やひび割れなどが、増加・拡大をしている。

（４）メンテナンス

破損した展示資料のうち、特に目立つ部分について修繕を行った。修繕箇所及び方法は、以下のとおり。

◆常設展示

「めぐみの森」内の減少したクマザサについて補充した。このほか、レプリカ・ジオラマについて、剥離箇所の再接着処理を行った。

◆縄文時代の家

炉石の再固定及び土器の欠損部の修復、周壁部の矢板の交換、土の充填転圧を行った。

◆前方後円墳

石室入口について、ラス網を取り付け、土・モルタル混合物を塗り付け補修を行った。

◆平安時代の製鉄炉

土留めの矢板を取り付け、流失分の土を充填転圧した。

◆室町時代の館

堀の法面について、崩落した土を取り除き、鉄筋及び土・セメント混合物で形状を復元した。

2. 企画展示

（１）ふくしま里帰り展

「発掘されたふくしまの江戸藩邸」

会 期：平成21年7月18日～9月13日（休館日を除いた56日間）

共 催：会津若松市教育委員会・二本松市教育委員会

観覧者数：6,572名

1) 趣 旨

大学等や研究機関の発掘調査や収蔵者の寄贈等により、他県の大学や博物館等に収蔵されている福島県関係の重要な資料を「ふくしま里帰り展」として企画し、その情報を広く県民に伝えることとした。

本年度は、福島県の藩の江戸藩邸跡から発掘された資料等を取り上げた。近世の世界的大都市江戸には、現在の皇居周辺や霞ヶ関の官庁街に全国の藩邸があった。福島県の各藩の藩邸のうち、会津藩中屋敷、二本松藩上屋敷が発掘調査されている。出土品を展示して、両藩藩士の

江戸の暮らしを紹介し、併せて当館所蔵の江戸時代の村々の発掘調査資料を並列展示して、県民に大都市東京にかって各藩の福島事務所があったことや江戸時代の暮らしや習俗を紹介する展示である。

2) 展示の構成と内容

展示資料は、東京都教育委員会が発掘調査を実施した溜池遺跡と汐留遺跡、白河市小峰城跡の焼塩壺、まほろん所蔵の三春町堀ノ内遺跡出土陶磁器を展示した。また、二本松藩と会津藩の藩邸の現在の写真を参考資料として掲示した。

①プロローグ

②江戸時代の大名たち

福島県内の大名配置と大名の意味を表示。

③江戸藩邸とは

江戸屋敷の意味と江戸での藩邸の位置を、「江戸切絵図 丸の内」や「文久再刻 御江戸大絵図 全」の写真パネル上に表示した。

④二本松藩（上屋敷）

東京都千代田区溜池に所在し、衆議院第一議員会館の建設に伴って発掘調査が行われた。猿水滴は、福島市岸窯跡の製品と酷似しており、福島県も含めて江戸まで流通していたことが確認された。

⑤会津藩邸（中屋敷）

東京都港区東新橋に所在し、汐留シオサイト建設に伴って発掘調査が行われた。出土品は、17世紀中葉から後半にかけての中国産・肥前産の高級磁器の出土が目立つ。

⑥会津藩の名品（鍋島焼や中国産の舶載陶磁



ふくしま里帰り展「発掘された江戸藩邸」

器)

佐賀県鍋島焼は将軍家に献上し、さらに有力大名に分け与えられた陶磁器である。舶載陶磁器は、中国系の皿・鉢などを展示した。

⑦江戸の焼塩壺と福島

⑧江戸時代の玩具

溜池遺跡や汐留遺跡から出土した土人形や土製メンコを展示した。

⑨三春町堀ノ内遺跡

東北横断道建設に伴って発掘調査が行われた三春町堀ノ内遺跡から江戸時代の農家跡と出土品を紹介した。

⑩エピローグー明治維新後の江戸藩邸ー

展示室中央に、「天保14年懷寶御江戸繪圖」の江戸図を拡大し、足下で歩いて見れるよう配置した。

3) 関連文化財研修(専門考古学講座Ⅰ)

日 時:平成21年8月30日

午後1時30分～3時30分

講 師:藤本 強(当館館長)

演 題:「発掘されたふくしまの江戸藩邸」

内 容:開催中の企画展「ふくしま里帰り展～発掘されたふくしまの江戸藩邸～」に関連して、会津藩中屋敷(現・汐留シオサイト)や二本松藩上屋敷(現・衆議院第一議員会館)などの江戸藩邸の現況を紹介するとともに、前田家本郷邸(現・東京大学構内)の調査を基に、江戸藩邸の実態と役人の暮らしぶりを解説した。

4) 成果と反省

本企画展期間中の入館者総数は、6,572人、開催期間中の一日平均入館者は117人である。

展示期間中は、臨時の展示解説会を行い、入館者への理解を深めるようにした。

特に、特別展示室中央に拡大した「江戸地図」を配置し、江戸と東京を比較できるようにした。足下に見る江戸図は、入館者に好評であった。各地域から来た入館者は、地元の藩邸を探し、過去と現在の東京の変貌を学んだ。

(2) 指定文化財展

「ふくしまの重要文化財Ⅶ 法正尻遺跡の国指定重要文化財」

会 期:平成21年10月24日(土)～平成22年1月31日(日)

(第1期:10月24日～11月29日、第2期:12月3日～12月27日、第3期:平成22年1月7日～1月31日)

(休館日、展示替え期間を除いた74日間)

観覧者:5,997名

1) 趣旨

法正尻遺跡出土品は極めて残りが良好で、土器の全形を容易に復元することができる第一級の資料であり、縄文時代中期の東北地方南部の遺品の実態を知るうえで欠かすことのできない一括品として、平成21年7月10日に国の重要文化財に指定された。

県内の重要文化財を紹介する「ふくしまの重要文化財」シリーズの第7弾として、法正尻遺跡出土品を紹介した。

2) 展示の構成と内容

指定された資料点数が多いことから、3期に分けて展示を行い、期間中、公開を中断して一部の縄文土器の展示替えを2回行った。

①プロローグ

法正尻遺跡の概略紹介。国指定に至るまでの経過紹介と官報展示。

②人と物が集う場所

縄文時代中期の大木式土器・円筒土器・阿玉台式土器・馬高式土器とそれら土器の文化圏を示したパネルを展示した。

③土中の貯蔵庫には土器がいっぱい

土坑からまとまって出土した土器と出土状況の写真パネルを展示した。



指定文化財展「法正尻遺跡」

④色々な土器

大きな突起を持つ土器、大きな土器と小さな土器、様々な形の土器、平縁の土器と波状口縁の土器、新潟との交流を示す土器をそれぞれ集成して展示した。

⑤小さな脇役

石器・石製品・土製品を展示した。

⑥エピソード（身近にある宝物）

県内の国・県指定重要文化財（考古資料）一覧と地図を展示した。

3) 関連行事

10月24日に福島県教育委員会の遠藤俊博教育長、磐梯町の五十嵐源一町長、猪苗代町教育委員会の土屋重憲教育長の臨席の下、オープニングセレモニーを開催し、テープカットを行った。

11月15日に文化財講座「発掘されたふくしまの遺跡（法正厩遺跡）」を実施し、法正厩遺跡の発掘調査を担当した当事業団遺跡調査部職員により、遺跡の概要や出土した土器の特徴についての解説がなされた。また、10月25日、12月13日、平成22年1月11日には、展示

を担当した当館職員によるギャラリートークを開催した。

4) 成果と反省

展示期間中の入館者数は5,997人で、その内の約6割は第1期の入館者であった。第2期、第3期においても法正厩遺跡出土の逸品を展示したが、積極的に広報活動をしたにもかかわらず、入館者数が伸びなかったことは残念である。

なお、展示図録の作成も検討したが、展示準備作業に多くの時間が割かれたことから、作成には至らず、A4判カラー4ページのパンフレットと展示資料を理解するための「展示解説資料」の作成・配布を行った。

(3) まほろん収蔵資料展

「新編陸奥国風土記 巻之七 信夫郡」

会 期：平成21年3月14日（土）～5月17日（日）

観覧者数：4,528名（平成21年度観覧者）

「新編陸奥国風土記 巻之八 宇多郡」

会 期：平成22年3月13日（土）～5月16日（日）

観覧者数：1,057名（平成21年度観覧者）

（休館日を除いた56日間）

1) 趣旨

まほろん春のてんじの題名となっている『風土記』は、古代の国内各地における土地の様子を記した書物であるが、「陸奥国」と呼ばれた東北地方の『風土記』は逸文以外には現存しない。

まほろんでは、収蔵されている考古資料などを通して、県内各地域の歴史や当時の人々の営みを復元し、新たな風土記の世界を『新編陸奥国風土記』として紹介している。

巻之八となる今回は、「宇多郡」に相当する相馬市と新地町を対象地域とした。旧石器時代から江戸時代の遺跡で見つかった数々の出土資料から、当時の人々の生活を紹介した。

2) 内容

旧石器時代から江戸時代までの時系列に沿って3つのコーナーに分け、当館収蔵の考古資料や写真パネルを基に展示構成を行った。

①「宇多のあけぼの」

旧石器時代の石器が出土した三貫地遺跡、縄



指定文化財展のポスター



収蔵資料展「新編陸奥国風土記 巻之八 宇多郡」

文時代の集落跡の段ノ原 B 遺跡、弥生時代の遺構・遺物が出土した武井 A 遺跡、古墳時代の水田跡や窯跡群が調査された大森 A 遺跡や善光寺遺跡などを通して、宇多郡成立前夜の生活の様子を紹介した。

②「古代宇多の製鉄」

宇多郡成立後、盛んに行われた当時の先端技術である製鉄の様子を、猪倉 A・B 遺跡や山田 A 遺跡などの遺構・遺物を通して紹介した。



収蔵資料展のポスター

③「近世宇多の製塩」

相馬市松川浦の北側には、もう 1 か所新沼浦という浦があった。この浦では近世から近代

展示資料一覧

(収蔵資料展「新編陸奥国風土記 巻之八 宇多郡」)

遺跡名	資料名	点数
三貫地（原口地区）	彫刻刀形石器	1
	ナイフ形石器	4
	錐形石器	2
	接合資料母岩	2
双子	縄文深鉢形土器	1
段ノ原 B	縄文深鉢形土器	3
	石鏃	2
	石槍	1
	石錐	2
	石匙	1
	打製石斧	1
	磨製石斧	1
	石製耳飾り	2
向田 G	弥生土器壺	2
武井 A	石鏃	1
	石庖丁	1
	打製石斧	1
武井 B	弥生土器刃痕底部	2
	磨製石斧	1
柴迫 A	弥生土器甕	1
	磨製石斧	1
大森 A	田下駄	1
善光寺（1 次）	須恵器蓋	2
	須恵器甕	1
	須恵器高台蓋	2
	須恵器高台杯	1
	須恵器長頸壺	1
高田	須恵器杯蓋	1
	須恵器杯身	1
	須恵器杯	1
	須恵器蓋	1
猪倉 A	羽口	9
	土師器甕	2
猪倉 B	鋳型	6
	須恵器長頸瓶	2
	須恵器杯	6
山田 A	鋳型	6
	羽口	2
武井 E	須恵器蓋・短頸壺	1
向田 A	羽口	1
	鋳型	9
鷲塚	陶器碗	1
師山	磁器碗	1
	木鏃	2
今神	陶器猪口	1
	陶器甕	1
	磁器猪口	1
	陶器皿	4
	陶器碗	2
	陶器徳利	1
山中 B	曲げ物	2
	万鏃	2
	下駄	2
	灰掻き	1

にかけて、多くの塩田が営まれた。鷲塚遺跡・師山遺跡などで調査された遺構・遺物を通して、製塩の様子を紹介した。

3) 成果と反省

本会期中の入館者数は 4,228 人、一日平均 76 人だった。

ギャラリートークなどの当館職員の展示解説により、来館者からは展示を分かりやすく見ることができたとの意見も多い。展示解説は定期的に行うのが効果的である。

(4) まほろん移動展

本年度は、ふくしま里帰り展「発掘されたふくしまの江戸藩邸」の移動展を、会津藩と二本松藩の地元である会津若松市文化センター（会津若松市）・二本松市歴史資料館（二本松市）で開催したほか、収蔵資料展「新編陸奥国風土記 巻之七 信夫郡」の移動展を、「摺上川歴史探訪」と題して、福島県歴史資料館（福島市）で開催した。

1) ふくしま里帰り展「発掘されたふくしまの江戸藩邸」移動展（会津若松市）

会 期：平成 21 年 10 月 1 日～ 10 月 7 日

会 場：会津若松市文化センター展示室

観覧者数：618 名

共 催：会津若松市教育委員会

内 容：会津藩中屋敷（東京都港区汐留地区）に関連する汐留遺跡を中心に、会津若松市所在の発掘調査品を比較展示した。なお、10 月 3 日（土）に展示解説会が行われた。



まほろん移動展（二本松市）

2) ふくしま里帰り展「発掘されたふくしまの江戸藩邸」移動展（二本松市）

会 期：平成 21 年 10 月 17 日～ 11 月 23 日

会 場：二本松市歴史資料館

観覧者数：740 名

共 催：二本松市教育委員会

内 容：二本松藩上屋敷（東京都千代田区溜池地区）に関連する溜池遺跡を中心に、二本松城跡の出土品や丹羽氏寄託の遺品を展示した。

3) 収蔵資料展「新編陸奥国風土記 巻之七 信夫郡」移動展「摺上川歴史探訪」

会 期：平成 21 年 7 月 11 日～ 8 月 23 日

会 場：福島県歴史資料館

観覧者数：1,554 名

内 容：摺上川流域の歴史に焦点をあて、当館に収蔵されている考古資料及び県歴史資料館所蔵の文献資料を公開した。

3. 講演会・講習会

(1) 館長講演会

平成 21 年度は、「私の世界文化遺産散歩—日本編—」をテーマとして、年に 6 回の講演会を実施した。内容と参加者数は下記のとおりである。

・ 4 月 25 日（土）第 1 回「世界遺産とは、日本の世界遺産」72 名

・ 5 月 23 日（土）第 2 回「法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、厳島神社」54 名

・ 6 月 27 日（土）第 3 回「古都奈良の文化財」44 名



第 1 回館長講演会

- ・10月24日（土）第4回「古都京都の文化財」59名
- ・11月28日（土）第5回「日光の社寺、白川郷・五箇山の合掌造り集落、紀伊山地の霊場と参詣道」40名
- ・12月19日（土）第6回「原爆ドーム、琉球王国のグスク及び関連遺産群、石見銀山遺跡とその文化的景観」48名

（2）文化財講演会

「“天地人”の時代—ふくしまと直江兼統一巡回企画展」にタイアップして講演会を開催した。

「天地人と福島」をテーマとして、当事業団歴史資料課職員が講師を務めた。

日 時：6月13日（土）

参加者：97名

（3）文化財講座

指定文化財展「ふくしまの重要文化財Ⅶ（法正厩遺跡の国指定重要文化財）」の会期中に、講座「発掘されたふくしまの遺跡—法正厩遺跡—」を行った。講師は、当事業団の遺跡調査部職員である。

日 時：11月15日（日）

参加者：32名

（4）文化財に関する上映会

白河市関辺地区に伝わる「関辺のさんじもさ踊り」の記録ビデオを、当館職員の解説を交えて上映した。

日 時：2月22日（月）

参加者：14名

4. 体験学習

平成21年度に実施した体験学習プログラムとその実績は、以下のとおりである。

（1）常時体験型メニュー

1）体験活動室メニュー

体験活動室において実施する、個人来館者を対象とした体験学習メニューで、2週間ごとに「勾玉・管玉づくり」に他のメニューを加えて実施した。

体験メニューについては、昨年度までの実施状況を踏まえて、季節や当館の行事予定を考

慮しつつ年間計画を作成し、さらに、4か月ごとに調整を加えながら具体的な予定表を作成した。

また、団体来館者対応の新規メニューを開発するため、「組紐づくり」を短期間試行し、イベント「雛まつり」後には「まゆ雛づくり」もメニューに加えた。

体験活動室メニューの実施状況

内 容	参加者数	内 容	参加者数
勾玉づくり	2,028名	竹笛をつくろう	15名
管玉づくり	47名	昔の遊び ～双六・カルタ・貝合わせ～	90名
火おこしに挑戦してみよう	1,264名	毬杖であそぼう	11名
時代衣装を着てみよう	461名	つるし雛をつくってみよう	32名
拓本に挑戦しよう	29名	獣脚ろうそくづくり	11名
土器づくり	66名	琥珀勾玉づくり	15名
ガラス玉をつくろう	287名	勾袋をつくろう	21名
アンギン編みに挑戦しよう	12名	組紐づくり	3名
七夕飾りをつくってみよう	101名	まゆ雛づくり	32名

2）臨時の個人来館者対応の体験メニュー

ゴールデンウィークや小中学校の夏休み期間、まほろんイベントの実施日、特別展示期間において、体験活動室メニューに加えて、個人来館者向けの体験メニューを実施した。

臨時の個人来館者対応体験メニューの実施状況

内容	参加者数	内容	参加者数
弓矢・やり投げ	2,046名	ふいご踏み	61名
バックヤードツアー	299名	愛のかぶとづくり	330名
砂鉄選別	292名		



夏休み期間の弓矢体験

3）団体来館者対応の体験メニュー

事前予約の団体来館者に対し、勾玉づくり、火おこし、土器さわりなど12メニューを実施した。

(2) 募集型体験メニュー

1) 実技講座

モノを作ることによって、古代の技術やその歴史、文化財に対する理解を深めることを目的として、12 講座 15 回実施した。

定員は各講座の内容に合わせて、10 人ないしは 15～6 人とし、家族・親子を対象とした講座では 10 組とした。定員を上回る応募がある講座が大半を占める一方で、「土偶・土面の野焼き」「奈良時代の須恵器の窯焼き」「ガラスと組紐のアクセサリーづくり」は定員を大幅に下回った。各講座の参加者数は別表のとおりである。

実技講座実施状況

講座名	実施日	参加者数
1 鹿の角で釣り針づくり	5月30日	12名
2 家族でつくる福島の郷土食	6月14日	22名
3 カラムシから布をつくろう①	7月4日	17名
4 カラムシから布をつくろう②	7月18日	16名
5 親子で土偶・土面づくり	8月8日	27名
6 土偶・土面の野焼き	8月29日	4名
7 カラムシから布をつくろう③	9月19日	17名
8 奈良時代の須恵器づくり	10月4日	8名
9 奈良時代の須恵器の窯焼き	10月25日	4名
10 ガラスと組紐のアクセサリーづくり	11月21日	4名
11 まっ茶茶碗をつくろう	11月28・29日	30名
12 土器づくり上級編①	1月16日	12名
13 土器づくり上級編②	1月23日	12名
14 古銭づくり	2月20日	16名
15 土器の野焼き	3月14日	10名



土器づくり上級編

2) まほろんイベント

館の業務や文化財に関心を抱いてもらい、来館者の年齢層・地域を広げ、集客アップをねらいとして実施している。今年度は、新たに「ゴールデンウイークまほろんまつり」を実施した。

① ゴールデンウイークまほろんまつり

火おこしに挑戦、バックヤードツアー、弓矢体験、昔話を聞こう、愛の兜づくり、綿アメづくりなどを実施した。

② まほろん夏まつり（開館8周年記念イベント）

古代3種競技、すり染め、かき氷づくりなどを実施した。

③ 古代の鉄づくり

(1) 砂鉄選別

製鉄炉操業で炉に投入する原料砂鉄をかな流しの要領で採取した。

(2) 羽口づくり

製鉄炉操業の際に製鉄炉の中に風を送る羽口を製作した。

(3) 製鉄炉操業

粘土で作った製鉄炉に砂鉄や木炭を投入する村下体験者、炉に風を送る踏みふいごを踏む番子さんを募集し、古代の鉄づくりに挑戦した。合計約 10 kgの鉄ができた。



古代の鉄づくり

④ まほろんを描こう

まほろんの様々な場所で、様々なものを題材にして描いてもらい、作品はエントランスホールに展示し、来館者の投票によって優秀作品を決定し、表彰した。

⑤ 餅つき大会

県南地区の餅つき唄に合わせて千本杵による餅つき体験を行った。つき上がった餅は館内の鏡餅とし、体験者にも振る舞った。また、県南地区の餅つき行事のビデオ上映とミニ展示も行った。

⑥第6回双六大会

まほろんカップ争奪の双六大会を実施した。

⑦まほろん冬まつり

火おこしタイムトライアル、昔の遊びに挑戦、カラムシの笛づくり、愛の兜づくり、カルメ焼き体験などを実施した。

⑧雛まつり

ひな祭り及びかさねの色目の話とまゆ雛づくりを行い、参加者に雛あられをプレゼントした。

⑨第7回毬杖大会

中世に行われていた遊びをまほろんルールで実施した。3人1チームで総当たりのリーグ戦を行い、まほろん優勝旗の争奪戦が展開された。

まほろんイベント実施状況

	内 容	実施日	参加者数
1	GWまほろんまつり	5月2～6日	1,280名
2	まほろん夏まつり	7月26日	413名
3	古代の鉄づくり		
	①砂鉄選別	8月8・9日	101名
	②羽口づくり	9月12日	8名
	③製鉄炉操業	11月7・8日	109名
4	まほろんを描こう	10月17・18日	42名
5	餅つき大会	12月6日	320名
6	第6回双六大会	1月10日	15名
7	まほろん冬まつり	2月14日	213名
8	雛まつり	2月28日	61名
9	第7回毬杖大会	3月13日	12名

3) まほろん森の塾

小学4年生から中学3年生までの塾生に対し、これまでまほろんが培ってきた技術や経験を基に、昔のくらし・技術を体験し、自らが生きる力を身につけることを目的に実施した。

今年度は、12名が登録し、「原始・古代の食」をテーマに7回実施した。



ちまきづくり

まほろん森の塾実施状況

	内 容	実施日	参加者数
1	結団式と古代の畑作物植え	5月23日	12名
2	土と木の食器をつくろう、お泊まり会	6月20・21日	12名
3	ちまきと郷土食づくり	7月12日	11名
4	石庖丁づくりと古代米刈り	9月20日	12名
5	古代の畑収穫	10月24日	3名
6	お正月の準備	12月19日	9名
7	冬の遊びと解団式	1月30日	11名

(3) 館外体験学習支援事業

本事業は、「おでかけまほろん」「まほろん出前講座」「まるごとまほろん」「ネットでまほろん」の4種類を行うこととしている。

「おでかけまほろん」は、当館職員が学校等に出向して、日頃の学習では味わえない臨場感あふれる地域の歴史や古代の人々の暮らし・知恵・技術について体験学習を通じて学ぶもので、当館開館以来10年間継続して実施している。

体験内容は、「土器さわり」「火おこし」「勾玉づくり」「弓矢」が主な内容であり、いずれも当事業の人気体験講座である。

また、「おでかけまほろん」は、出向先である学校の先生等が主体となって授業等を進める中で、当館職員が専門的な事項を解説する「連携コース」と、当館職員が主体となって体験活動を進めていく「まほろんコース」の2種があり、事業開始当初から今年度までの応募内容は、「まほろんコース」が大半を占めている。

平成21年度は、前期(4月～6月)に11校、中期(7月～9月)に7校、後期(10月～12月)に6校の計24校で実施した。実施月については、社会科で歴史を学ぶ時期の4～6月に



おでかけまほろん(会津若松市湊小学校)

集中し、全体の半数近くを占める。参加者数は743名で、前年度より実施校を増やしたことにより増加したが、小規模校の応募が主であったため、1校当たりの参加者数の平均は、前年度を下回った。地域別にみると会津地方2か所、中通り地方17か所、浜通り地方5か所で、中通り地方の学校が7割を占めた。

「まほろん出前講座」は、「おでかけまほろん」と同内容の体験学習メニューを、公民館等生涯学習施設と連携して行うもので、平成21年度

からこの名称で実施している。平成21年度は相馬市と只見町の2か所で実施した。

「まるごとまほろん」は、当館収蔵の考古資料を、出土した地域の公民館等の生涯学習施設で展示し、地域の方々に触れていただくとともに、併せて体験学習等も行うものである。平成21年度は下郷町と楡葉町の2か所で実施した。

なお、「ネットでまほろん」は遠隔地ネット授業を実施すべく遠隔地校や養護学校に広報したものの、申込み校がなかった。

「おでかけまほろん」実施状況

	団 体 名	学年・科目	体 験 内 容	実施日	参加者数
1	川俣町立飯坂小学校	6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる	4月16日	25名
2	いわき市立川部小学校	5・6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる	4月23日	37名
3	いわき市立田人第一小学校	6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる、勾玉づくり	4月24日	15名
4	二本松市立岳下小学校	6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる、弓矢体験	5月13日	44名
5	会津若松市立湊小学校	6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる	5月19日	17名
6	平田村立西山小学校	5・6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる、勾玉づくり	5月27日	9名
7	須賀川市立西袋第一小学校	5・6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる、勾玉づくり	5月29日	97名
8	本宮市立本宮小学校	6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる	6月5日	74名
9	三春町立御木沢小学校	5・6年、社会科	火おこし体験、弓矢体験	6月11日	32名
10	南相馬市立鹿島小学校	6年、社会科	縄文時代の道具に触れる、勾玉づくり	6月17日	62名
11	田村市立船引南小学校	6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる、弓矢体験	6月23日	38名
12	田村市立瀬川小学校	6年、社会科	縄文時代の道具に触れる	7月1日	17名
13	伊達市立月館小学校	5・6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる、弓矢体験、毬杖	8月28日	74名
14	いわき市立勿来第三小学校	6年、社会科	火おこし体験、弓矢体験	9月2日	18名
15	いわき市立小白井小学校	1～6年・中、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる、弓矢体験	9月3日	14名
16	田村市立要田小学校	6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる	9月11日	19名
17	棚倉町立社川小学校	6年、社会科	勾玉づくり	9月15日	25名
18	石川町立母畑小学校	6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる	9月30日	16名
19	三春町立中妻小学校	6年、社会科	火おこし体験、弓矢体験	10月16日	13名
20	須賀川市立白江小学校	6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる、弓矢体験	10月21日	26名
21	会津坂下町立広瀬小学校	6年、社会科	火おこし体験	10月29日	22名
22	福島市立平田小学校	6年、社会科	縄文時代の道具に触れる、勾玉づくり	11月11日	16名
23	本宮市立和田小学校	6年、社会科	火おこし体験、縄文時代の道具に触れる、勾玉づくり、弓矢体験	11月17日	13名
24	郡山市立三町目小学校	5・6年、社会科	火おこし体験、勾玉づくり	12月4日	20名

「まほろん出前講座」実施状況

No.	団 体 名	対象・科目	体 験 内 容	実施日	参加者数
1	相馬市山上公民館	小学生(生涯学習)	火おこし体験、弓矢体験	7月21日	30名
2	会津只見考古館	小学生(生涯学習)	火おこし体験、勾玉づくり	8月18日	35名

「まるごとまほろん」実施状況

No.	団 体 名	展示内容	体 験 内 容	実施日	参加者数
1	下郷町ふれあいセンター	南倉沢遺跡等	火おこし体験、勾玉づくり	11月3日	364名
2	楡葉町コミュニティセンター	馬場前遺跡・小塙城跡等	火おこし体験、勾玉づくり	11月21～22日	63名

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

月ごとのアクセス数を別表に示した。年間総アクセス数は48,416件で、月平均約4,034件となっている。年度ベースでは昨年度よりも3,053件増加している。

月別のアクセス件数を見ると、4,000件を超

えたのが4～8、10月で、上半期のアクセスが多い。

2. データベースによる情報提供

(1) アクセス数の推移

平成21年度のアクセス数を別表に示した。

データベースの年間アクセス数は520,287

ホームページのアクセス数一覧

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	4,506	321,030
5月	4,792	325,822
6月	4,720	330,542
7月	4,633	335,175
8月	4,245	339,420
9月	3,733	343,153
10月	4,061	347,214
11月	3,796	351,010
12月	3,219	354,229
1月	3,771	358,000
2月	3,343	361,343
3月	3,597	364,940
合計	48,416	

件、月平均約 43,357 件となっており、合計のアクセス件数は、昨年度（354,498 件）よりも約 1.5 倍に増加している。

その内訳を見ると、遺跡データベースと遺物データベースが 170,000 件を超えており、アクセスの頻度が高い。

各データベースのアクセス件数を昨年度と比較すると、遺跡データベースは約 1.7 倍（昨年度 107,448 件）、遺物データベースは約 1.3 倍（昨年度 133,891 件）、写真データベースは約 1.1 倍（昨年度 67,206 件）、文献データベースは 2.3 倍（昨年度 45,953 件）で、全体的に増加しているが、特に遺跡データベースと文献データベースの増加が大きい。

月別のアクセス件数を見ると、2 月以外では 30,000 件を超えており、年間を通してコンスタントにアクセスが多い。

データベースのアクセス数一覧

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	写真	文献
4月	47,189	15,645	17,590	5,682	8,272
5月	38,982	12,663	14,778	4,795	6,746
6月	45,730	14,575	17,991	5,726	7,438
7月	41,940	16,491	13,433	4,943	7,073
8月	48,956	15,820	19,729	5,435	7,972
9月	45,573	14,797	18,095	5,342	7,339
10月	44,561	13,786	17,427	5,102	8,246
11月	46,357	19,250	12,962	5,366	8,779
12月	51,068	18,596	13,940	5,672	12,860
1月	43,770	14,445	13,438	4,596	11,291
2月	26,888	8,423	8,236	3,397	6,832
3月	39,273	13,941	10,188	4,413	10,731
合計	520,287	178,432	177,807	60,469	103,579

(2) データの入力

平成 20 年度に遺跡調査部の文化財センター整備担当で作成されたデータ及び当館で作成している「文献データベース」の入力を行った。新規入力数（テキスト）を別表として示した。合計入力数は 4,677 件となっている。

データ入力一覧

種類	入力数	累計
遺跡（基本データ）	13	13,779
遺跡（調査台帳）	105	3,850
遺物	2,075	229,405
遺物写真	0	10,954
写真	1,100	47,713
文献	1,384	13,646
合 計	4,677	319,347

3. まほろん通信の発行

4 月 15 日、7 月 15 日、10 月 15 日、1 月 15 日の 4 回、4,000 部を発行した。概要は、以下のとおりとなっている。

(1) まほろん通信 vol.32（4 月 15 日発行）

- ・まほろんイベント「雛まつり」
- ・まほろんイベント「冬まつり」
- ・体験学習「古銭づくりのようす」
- ・ゴールデンウイークのまほろん
- ・文化財研修のご案内（4～6 月の研修）
- ・平成 20 年度の入館者数
- ・まほろんからのお知らせ（白坂駅に案内板を設置しました）
- ・今年度の行事予定

(2) まほろん通信 vol.33（7 月 15 日発行）

- ・実技講座「ちまきづくり」
- ・体験学習（実技講座「鹿の角で釣り針づくり」）
- ・夏のまほろん（夏のイベント）
- ・企画展示案内（ふくしま里帰り展「発掘されたふくしまの江戸藩邸」）
- ・イベント「鉄づくり」
- ・まほろんボランティア
- ・文化財研修のご案内（7～9 月の研修）
- ・シリーズ収蔵品紹介 8（墨書土器の不思議）
- ・まほろんからのお知らせ（夏休みは無休です）

(3) まほろん通信 vol.34（10 月 15 日発行）

- ・実技講座「カラムシから布をつくろう」

- ・まほろん森の塾（第9期まほろん森の塾）
- ・夏まつりのようす
- ・企画展案内（指定文化財展「ふくしまの重要文化財Ⅶ 法正尻遺跡の国指定重要文化財」）
- ・イベント「鉄づくり」
- ・まほろんボランティア
- ・文化財研修のご案内（1～3月の研修）
- ・シリーズ収蔵品紹介9（荒小路遺跡出土の土偶）
- ・まほろんからのお知らせ（獣脚ろうそくがつくれます）



まほろん通信

- （4）まほろん通信 vol.35（2月15日発行）
- ・イベント「古代の鉄づくり」
- ・まほろん森の塾
- ・イベント「餅つき大会」
- ・イベント「まほろんを描こう」
- ・地域連携事業「からくり劇場」
- ・文化財研修のご案内（1～3月の研修）
- ・本年度の「おでかけまほろん」
- ・まほろんからのお知らせ

6 文化財に関する研修

1. 研修実施の概要

平成21年度の研修は、基礎研修10回、専門研修6回と、臨時に館内や館外で行う特別研修5回の合計21回を実施した。平成21年度に研修を実施した日数は延べ29日、研修の参加者は543人で、受講者数は昨年度より約70名減少した。

文化財研修実施状況

区分	研修名	講師	実施日	受講者数	場所
基礎研修	考古学基礎講座Ⅰ「まほろん収蔵の考古基準資料(旧石器)」	鹿又喜隆（東北大学大学院准教授）	5月16日	16名	館内
	考古学基礎講座Ⅱ「福島県の宝物（古墳時代の祭祀遺物）」	佐久間正明（財団法人郡山市文化・学び振興公社主査）・当館職員	6月20日	31名	館内
	考古学基礎講座Ⅲ「衣食住の考古学（衣）」	佐々木長生（福島県立博物館）	7月11日	22名	館内
	体験学習支援研修Ⅰ「カラムシ繊維の取り出し」	大波紀子（当館職員）	7月25日	10名	館内
	教職員発掘調査体験研修	菅原祥夫・佐々木慎一（当館職員）	8月5日～7日	21名	須賀川市
	無形の文化財研修「民俗芸能と民俗技術」	大山孝正（当館職員）	10月18日	16名	館内
	考古学基礎講座Ⅳ「福島県考古学の研究史（浜通り）」	渡邊一雄（福島県考古学会顧問）	11月14日	21名	いわき市
	体験学習支援研修Ⅱ「土器づくりと野焼き」	当館職員	11月29日・12月13日	0名	館内
	調査技術基礎研修「分布調査の方法」	鈴木一寿（白河市文化財課）・佐々木慎一（当館職員）	1月23日	6名	館内
	考古学と地方史研究「会津地方の遺跡一下野街道を歩く」	高橋信一（当館職員）	2月13日	14名	館内
専門研修	文化財保護指導者研修会	鈴木啓（福島県考古学会顧問）	7月28日～29日	223名	二本松市
	専門考古学講座Ⅰ「発掘されたふくしまの江戸藩邸」	藤本強（当館館長）	8月30日	38名	館内
	専門考古学講座Ⅱ「古代の集落」	菅原祥夫（当館職員）	9月12日	30名	館内
	考古学と関連科学「年代測定（年輪年代）」	木村勝彦（福島大学共生システム理工学類准教授）	10月3日	14名	館内
	専門考古学講座Ⅲ「縄文土器（後期後半）の見方」	山岸英夫（当事業団遺跡調査部職員）	12月20日	19名	館内
	史跡整備研修	柳沼賢治（財団法人郡山市文化・学び振興公社施設課長）	2月25日	12名	郡山市
	臨時館内研修	当館職員	臨時的	8名	館内
特別研修	職員派遣研修	当館職員	臨時的	24名	館外



考古学基礎講座Ⅰ「まほろん収蔵の考古学資料（旧石器）」

2. 研修実施状況

平成21年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下のとおりである。最も参加が多かったのは、市町村等で文化財の保護に携わる職員で396人、全体の65.2%を占めている。教職員の参加者は27人で4.4%、文化財関係の市民ボランティアは63人で10.4%、その他一般人・学生が121人で20%であった。今年度は昨年度多かった教職員の受講が少なく、一般人や学生が、文化財保護に携わる人達の次に多くなっているのが特徴である。

基礎研修は、別表に示したとおり考古学基礎講座などを11回実施した。

「考古学基礎講座」は、文化財や考古学に関する基礎知識を学ぶ講座である。「考古学基礎講座Ⅰ」は、まほろんで収蔵する考古資料の中で、基準になる資料をもとに、各時代の基礎知



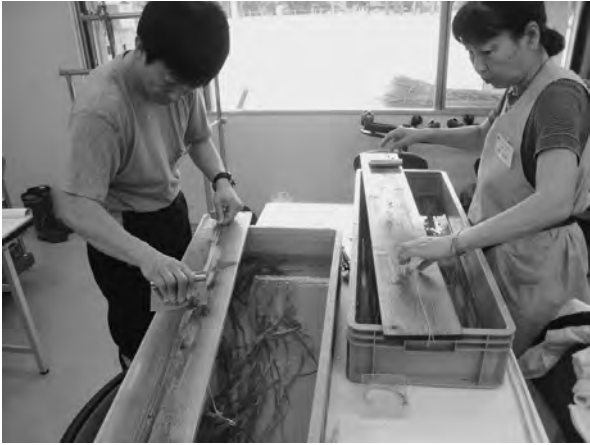
考古学基礎講座Ⅱ「福島県の宝物」



考古学基礎講座Ⅲ「衣食住の考古学（衣）」

識を学ぶ講座である。今回は、東北大学大学院の鹿又喜隆氏を迎えて、旧石器時代の資料を取り上げ、県内旧石器時代の変遷をわかりやすく講義した。「考古学基礎講座Ⅱ」は、「福島県の宝物」をシリーズテーマとし、県内出土の考古資料をもとに、考古学の基礎知識を学ぶ講座である。今回は、「神々と考古学の世界」と題し、郡山市文化・学び振興公社の佐久間正明氏と当館職員が、古墳時代中期に行われた石製模造品による祭祀について、郡山市や白河市の出土資料をもとに講義した。「考古学基礎講座Ⅲ」は、「衣食住の歴史」をシリーズテーマとした。今回はこのうちの「衣の歴史」を取り上げた。福島県立博物館の佐々木長生氏を迎え、展示した民俗資料の衣服をもとに、布の素材や衣服の種類や作り方を講義した。「考古学基礎講座Ⅳ」は、いわき市生涯学習プラザを会場に、福島県考古学会顧問の渡邊一雄氏に講師をお願いし、「福島県考古学の研究史」シリーズの浜通りの研究史について講義を行った。「体験学習支援研修」は、文化財を学校などで行う体験学習に生かす方法を学ぶ研修である。「体験学習支援研修Ⅰ」は、カラムシから繊維をとる方法を、実地に学ぶ研修である。講師は当館職員が務めた。「教職員発掘調査体験研修」は、福島県の発掘調査を体験し、学校教育・社会教育に役立てる研修である。今回は、須賀川市の国指定史跡上人壇廃寺跡の発掘調査現場を会場に、遺構の検出や調査方法を学んだ。講師は当館職員が務めた。

「無形の文化財研修」は、無形の文化財の基礎知識と調査方法を学ぶ研修である。この研修で



体験学習支援研修Ⅰ「カラムシ繊維の取り出し」

は、当館職員が民俗芸能や民俗技術の調査方法などに関して講義した。「調査技術基礎研修」は、発掘調査技術に関する基礎知識を学ぶ研修で、今回は「分布調査の方法」を研修した。講師は当館職員が務めるとともに、白河市文化財課の鈴木一寿氏にお願いした。まほろんに近接する芳野遺跡では、分布調査の実際を学んだ。「考古学と地方史研究」は、考古資料から見たそれぞれの地方の歴史を学ぶ研修である。当館職員が「会津地方の遺跡一下野街道を歩く」と題して、下郷町大内宿の発掘調査の成果などをもとに、下野街道に関わる研究成果を講義した。「文献資料と地方史研究」は、文献資料を通して県内の地方史を学ぶ研修である。今回は白河市の白河藩御用瓦師の古文書を取り上げて、当館職員が講義を行った。なお、「体験学習支援研修Ⅱ」は、受講者の応募がなく、実施を見送った。



教職員発掘調査体験研修



考古学と関連科学「年代測定（年輪年代）」

専門研修は、専門考古学講座などを6回実施した。

「専門考古学講座」は、文化財や考古学の専門的知識を深める講座である。「専門考古学講座Ⅰ」は、「ふくしま里帰り展」とタイアップして、「発掘されたふくしまの江戸藩邸」と題し、かつて東京大学構内の遺跡調査に関わった当館の藤本館長が講義を行った。「専門考古学講座Ⅱ」は、当館職員が講師を務めて、「古代の集落」をテーマに講義した。まほろんに収蔵されている多くの集落遺跡出土資料も展示した。「専門考古学講座Ⅲ」は、「縄文土器の見方」の後期後半編で、当事業団遺跡調査部職員が講師を務めた。「考古学と関連科学」は、考古資料の分析や保存などに関する科学的知識を学ぶ研修である。今回のテーマは、「年輪年代法による年代測定」で、福島大学共生システム理工学類の木村勝彦氏を講師に迎えて開催した。「史跡整備研修」は、史跡整備に関する調査・整備方法・事務手続きなどについて学ぶ研修で、今年度オープンした郡山市の大安場史跡公園を会場に開催した。講師は、郡山市文化・学び振興公社の柳沼賢治氏にお願いし、国指定史跡大安場古墳の整備事業について講義を実施した。

特別研修は、「臨時館内研修」を2回、「職員派遣研修」を3回実施した。

7 文化財に関する調査研究

1. 復元品製作研究事業

(1) 研究の目的

復元品製作研究事業は、遺跡から出土した遺物や確認できた遺構を対象とし、古代の技術や素材をできる限り検討し、今に甦らせるものである。

平成17年度から「金工史から見た古代石背・石城国設立の謎」をテーマとして、いわき市中田横穴出土馬具類を復元製作している。

この復元品製作研究では、開館時に復元した白河市筑内37号横穴墓から出土した馬具類との比較検討を行い、福島県の古墳時代金工技術の地域差から、その社会背景に迫り、さらには古代の石背・石城国の設立の謎を解明することを目的とする。

(2) 復元品製作研究の計画

対象とした資料は、いわき市中田横穴出土の馬具類であり、これらを以下のような年次計画で復元する。

平成17年度：金銅装木製鞍と尻繫関連

平成18年度：金銅装鐙（三角錐形壺鐙）の内、木胎部

平成19年度：金銅装鐙（三角錐形壺鐙）の金属部製作及び完成

平成20年度：障泥

平成21年度：馬鈴

平成22年度：胸繫

平成23年度：面繫

(3) 平成21年度の経過

平成21年度は馬鈴を製作することとし、原資料の蛍光X線分析及びX線写真撮影を各1回と製作に関する検討会を3回実施し、その他に製作に係る打ち合わせを必要に応じて実施した。

5月13日：蛍光X線分析（於：当事業団遺跡調査部渡利分室）

非破壊による原資料の材質調査。

5月14日：第1回検討会（於：いわき市考古資料館、出席者：馬目順一氏・渡邊一雄氏・松本友之氏・中山雅弘氏）



完成した馬鈴

原資料の観察及び蛍光X線分析の結果を受けて、青銅の鋳物ではなく、純銅に近い成分の鍛造製品ではないかとの推測に至る。

6月24・25日：X線写真撮影（於：福島県立博物館）

7月14日：第2回検討会（於：いわき市考古資料館、出席者：鈴木勉氏・依田香桃美氏・山田琢氏・猪狩みちこ氏）

X線写真フィルムと原資料を照らし合わせて、構造・製作技法を検討。現代の金工作家が行うしぼり技法で行ってみたいことにする。

8月21日：しぼり技法は近世以前に遡らないので、打ち出し技法に変更。

12月18日：第3回検討会（於：いわき市考古資料館、出席者：鈴木勉氏・松林正徳氏・中山雅弘氏）

製作途中の製品と原資料を照らし合わせて細部の検討。その後、製作発注。

3月26日：納品。

(4) 復元した資料

中田横穴から出土した馬鈴は大中小3種類であり、これら3種類について、いずれも木型を作成後、銅板を打ち出して復元製作した。

大鈴は鐙に沿って上下に突帯が巡り、上半部には天場に孔を持つ円形の突起が3個存在する。製作の際には、これらの突帯や突起の打ち出しに細心の注意が払われた。また、板状の鈕は上半部の天場に開けた長方形の孔に差し込んだ後に孔の両脇からかしめて固定した。さらに、表面は本体部のみに金箔を貼って仕上げ、鈕は

地金を露出させた。中鈴は表面に金箔を施さず、鈕を針金状のものとした。小鈴は3個体分出土しているが、4個復元製作し、本体部・鈕とも金箔を貼って仕上げた。

なお、肉眼観察及びX線写真撮影の結果を受けて、3種類とも上半部と下半部は、鏝の部分で下半部の端部を上半部の端部に被せることによって合体させた。

2. 研究紀要2009の発行

当館職員の調査研究成果をまとめ、発行した(5論文)。

—研究論考—

- ・ カマド燃焼部における遺物出土状況の検討(丹治篤嘉)
- ・ 摺上川上流域における縄文時代中期末葉～後期前葉の住居跡について(大河原勉)
- ・ 居宅と火葬墓(菅原祥夫)

—文化財報告—

- ・ ‘衣’に関わる体験学習プログラムについての現状と課題—縄文時代の布づくりと古代の染色の体験学習を通して—(大波紀子)
- ・ 福島県文化財センター白河館における資料管理の現状と課題(轡田克史)

8 ボランティアの運営

1. 募集

第2期の指定管理者選定の後、新しい「まほろんボランティア」の募集を行った。(募集期間：平成21年2月10日～3月5日)

申し込み資格は、①平成21年4月1日現在で18歳以上(高校生は除く)、②無償で活動できる方(保険料は当館負担)、③毎月2日間以上(1日2時間程度)活動できる方である。

3月8日(日)にまほろんボランティア説明会を開催し、その後、登録前面談を行った。

2. 登録

当館に登録するボランティアの名称を「まほろんボランティア」と呼び、登録形態は「個人登録ボランティア」とする。

個人登録ボランティアの登録状況は別表のとおりである。4月19日付けで登録が行われた。

登録の後に、新規ボランティアを対象に、基礎講座Ⅰ(4月26日)、基礎講座Ⅱ(5月10日)、基礎講座Ⅲ(5月23日)を開催した。

まほろんボランティア登録状況

平成21年度登録者数	44名 (男28名・女16名)
内訳	
1. 最年長 82歳	
2. 最年少 20歳	
3. 平均年齢 63歳(男63歳・女62歳)	

3. 活動内容

主な活動内容は、以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 体験学習(実技講座・団体等)の支援
- イベント(餅つき大会等)の支援
- 体験学習器材の製作
- 野外展示の火焚き管理
- まほろんオリエンテーリング
- 植物観察ツアー
- アンギン編み



ボランティア活動(餅つき大会の補助)

4. 受け入れ体制

当館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休憩室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に6名のボランティア担当者を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。

9 その他

1. 年報 2009 の発行

当館の平成 20 年度 1 年間の活動をまとめた年報を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に送付した。

2. 運営協議会の開催

福島県文化財センター白河館運営協議会は、館長の諮問機関として、年 2 回開催している。

平成 21 年度は、工藤雅樹（福島大学名誉教授・新任）、平出美穂子（郡山女子大学准教授・新任）、伊藤渉（西白河小中学校長連合協議会会長・新任）、和知延（白河市文化財保護審議会委員・再任）、佐藤修（国立那須甲子青少年自然の家所長・新任）の各委員を委任した。

（1）第 1 回運営協議会

日時：平成 21 年 9 月 5 日（土）

場所：会議室

協議内容

- ・福島県文化財センター白河館の概要
- ・平成 20 年度白河館の事業について
- ・平成 21 年度白河館の事業について
- ・平成 20 年度来館者アンケートの結果について
- ・その他

（2）第 2 回運営協議会

日時：平成 22 年 2 月 27 日（土）

場所：会議室

協議内容

- ・平成 21 年度白河館の運営状況について
- ・平成 22 年度白河館の事業計画について
- ・その他

3. 自主文化事業

平成 21 年の NHK 大河ドラマ「天地人」の時代に焦点をあて、主人公の直江兼続が生きた時代について、巡回企画展「“天地人”の時代—ふくしまと直江兼続—」を、福島県文化センター（福島市）、当館（白河市）、福島県立博物館（会津若松市）で順次開催した。このうち、当館での展示及び関連の講演会を、当事業団自

主文化事業として実施した。

（1）展示「慶長五年 直江兼続と白河口」

会 期：平成 21 年 6 月 13 日～7 月 12 日

（休館日を除いた 26 日間）

入場者数：4,416 人

開催地・白河市にちなみ、関ヶ原合戦前夜の上杉家の動き、特に白河口の動向に焦点を当て、大きく二つのコーナーに分けて展示した。第一のコーナー「上杉景勝の会津入部とふくしま」では、会津若松市若松城跡、須賀川市長沼城跡、須賀川市新田館跡、三春町三春城跡、郡山市守山城跡、白河市小峰城跡の出土品（各教育委員会蔵）、棚倉町赤館跡写真（棚倉町教育委員会提供）、当館保管の郡山市木村館跡出土品など、織豊期の城館跡の出土品を展示した。第二のコーナー「神指城・直江状・小山評定」では、当館保管の会津若松市神指城跡出土品、有名な「直江状」（複製、米沢市立上杉博物館提供）、「白河口戦闘配備之図」（複製、米沢市立米沢図書館提供）、白河市芳野遺跡出土品（白河市教育委員会蔵）などを展示し、慶長 5 年（1600）の上杉家をめぐる動向を白河口を中心に再現した。また、関ヶ原合戦の遠因となったとされる神指城の実像を発掘成果から紹介した。

（2）天地人講演会「幻の白河決戦～革籠原防塁説の根拠をさぐる～」

日 時：平成 21 年 6 月 28 日（日）

会 場：J R 東日本総合研修センター

参加者：144 人

会津古城研究会会長の石田明夫氏を講師に招き、小説「天地人」の中に登場する白河の「防塁」と呼ばれる遺構等について解説した。

4. 地域連携事業（まほろんからくり劇場）

地域諸団体との連携を図る目的で実施した。四季にちなんだ昔話とおもちゃづくりなどを内容とし、今年度は 4 回実施した。

5. その他

博物館実習を公募し、6 名の大学生の参加で実施した。

第4章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

所在地：〒961-0835 福島県白河市白坂字一里段 86 番地

設置者：福島県

管理機関：財団法人福島県文化振興事業団

開 館：平成 13 年 7 月 15 日

○建 築

設計：株式会社佐藤総合計画

工事監理：福島県土木部都市局営繕課・株式会社佐藤総合計画

施工

建築工事：佐藤工業株式会社・株式会社兼子組特定建設工事共同企業体

機械設備工事：山田設備工業株式会社

電気設備工事：福島電設株式会社

○展 示

設計監理：日精株式会社

屋内展示製作：株式会社乃村工藝社

屋外展示製作：株式会社トリアド工房

1 建築概要

◎敷地面積：51,827.51 m²

◎建築面積：本館・収蔵庫棟 5,999.955 m²
体験学習館 133.627 m²

◎延床面積：本館棟 2,400.046 m²
収蔵庫棟 2,999.769 m²
計 5,399.815 m²
体験学習館 92.71 m²

◎構造：(本館棟)鉄筋コンクリート造、(収蔵庫棟)鉄骨造、(体験学習館)木造

◎規模：地上 1 階（最高高さ 10.29m、軒高 8.79m、階高 4m）

◎駐車台数：一般駐車場 91 台（身障者用 4 台）・大型車駐車場 10 台・臨時駐車場 40 台・職員駐車場 21 台・駐輪場 28 台

◎地域地区：都市計画区域内・無指定

◎主な外部仕上げ

(本館棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、陸屋根：アスファルト防水コンクリート押さえ、外壁：コンクリート打放し一部はつり仕上げフッ素系シラン塗装、建具：アルミサッシ電解着色、外構：インターロッキングブロック（環境整備工事）

(収蔵庫棟)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：コンクリート打放しフッ素系シラン塗装・押出し成形セメント板フッ素系シラン塗装、建具：スチール製建具

(体験学習館)屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：粒状陶石塗、建具：アルミサッシ電解着色

◎主な内部仕上げ

(エントランス・プロムナードギャラリー)床：フローリング・花崗岩 JB、壁：コンクリート打放しはつり仕上フッ素系シラン塗装・木練付不燃パネル、天井：木練付不燃パネル

(事務室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(常設展示室)床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板・一部溶接金網メラニン焼付け二重天井化粧石膏ボード

(特別展示室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(体験活動室)床：フローリング、壁：ガラスクロスビ

ニルエナメル、天井：岩綿吸音板

(講堂)床：フローリング、壁：腰壁／グラスウール吸音材＋集成材染色塗装、上壁／岩綿吸音板、天井：岩綿吸音板

(研修室・実習室)床：ビニルシート、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音

(収蔵庫棟)床：塗り床、壁：木繊維セメント板・セメント成型板、天井：木繊維セメント板

(体験学習館)床：合板張り一部畳敷き、壁：合板オイル拭き、天井：合板オイル拭き

2 設備概要

◎電気設備：受電方式／高圧 6.6KV 1 回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電 50KVA

非常照明設備・誘導灯設備：建築基準法に基づいて設置

放送設備：非常放送と兼用、出力 240W

電気時計設備・テレビ共同視聴設備・インターホン設備

電話設備：電子交換外線 4 回線（ISDN）内線 55 回線

監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停

制御及び計測監視

◎防犯・防災設備

防犯設備：赤外線スペースセンサー・マグネットセンサーを各室に設置し、監視制御システムと併用

ITV設備：ITVを必要箇所に設置し、常設展示室、特別展示室、エントランス・プロムナードギャラリー、搬入口、体験広場の状況を事務室・警備員室で監視

火災報知設備：受信盤 P 型 1 級 19 回線（自火報）4 回線（防排煙設備）、煙感知機 66 箇所、熱感知機 107 箇所、ガス漏れ検知器 6 箇所

防災設備：消火／屋内・屋外消火栓、HFC ガス消火方式、排煙／自然排煙

防火扉設備：5 回線

雷警報設備：襲雷警報器（コロナーム）

避雷針設備

◎空調設備

空調方式：一般系統／ガスエンジン空冷 HP マルチパッケージ方式（一部空冷 HP）＋静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト（空冷冷専パッケージ＋電気ヒーター＋アルカリ除去フィルターユニット）方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト（ガスエンジン HPP）方式

熱源：都市ガス（ガス種別：プロパン）

◎衛生設備

給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流（最終桝でポンプアップ）方式で下水道本管へ放流、雨水；側溝放流

多目的便所：屋内 1 箇所（男女別）、屋外 1 箇所（男女別）、トイレ呼出設備付

◎昇降機設備

荷物用リフター 2 基：一般収蔵庫（油圧式 最大積載量 1,000 kg）、搬入口（油圧式 最大積載量 1,000 kg）

工期 着工平成 11 年 7 月 12 日 完成平成 12 年 10 月 16 日

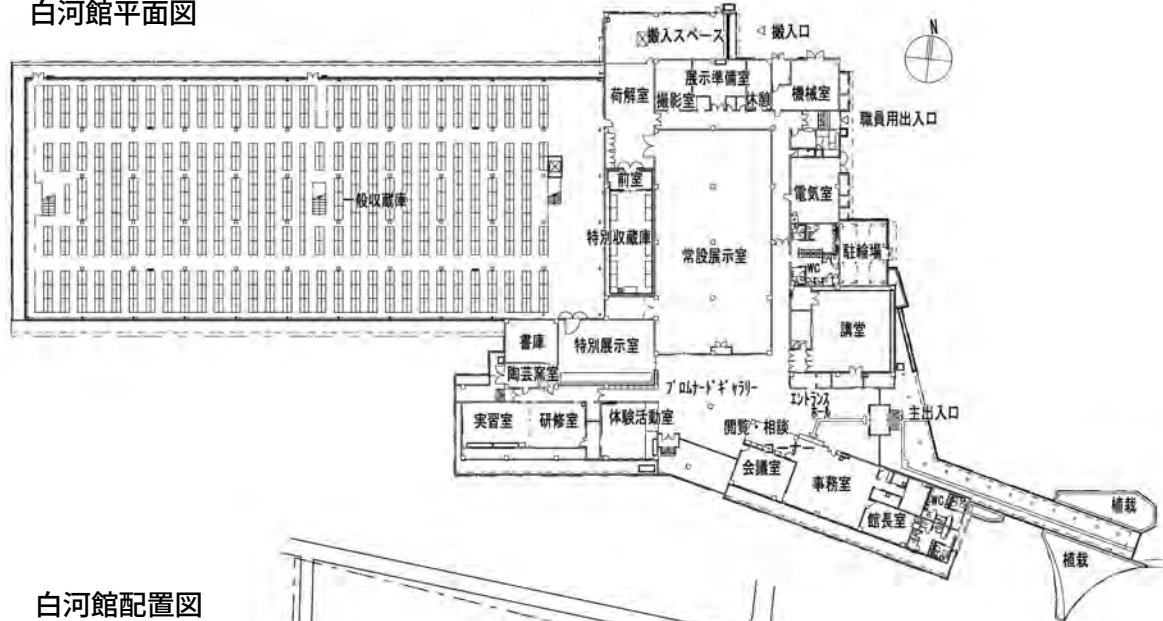
建築事業費 2,690,848 千円

公有財産購入費 222,095 千円

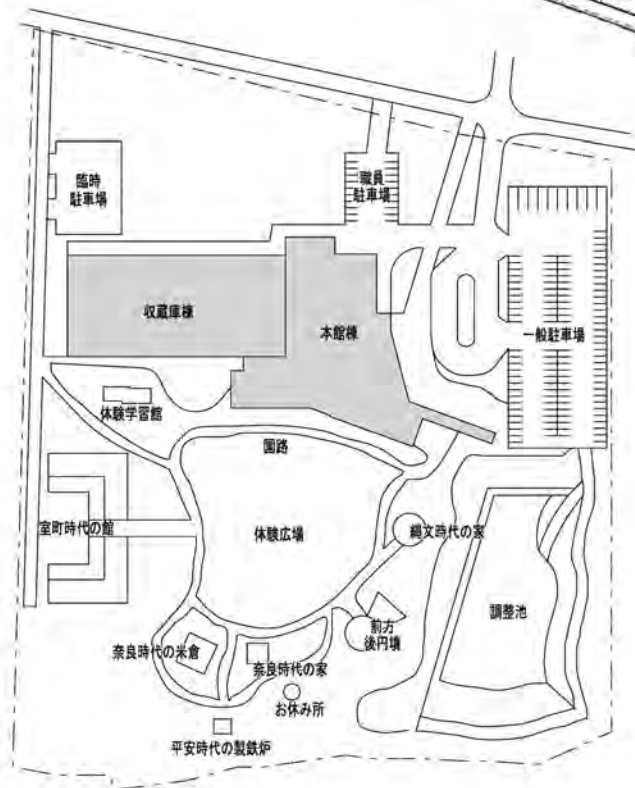
その他の経費 387,682 千円

合計 3,300,625 千円

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表 (㎡)

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分 2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・フロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16				
救護室	9		体験学習館	93	

第5章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。
(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。
一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。
(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。
一 第三条各号に掲げる業務に関すること。
二 白河館の維持管理に関すること。
三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。
2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。
3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であつて、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。
一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わな

いこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者
(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七年条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八年条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。

(施行の日＝平成一三年七月一五日)

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

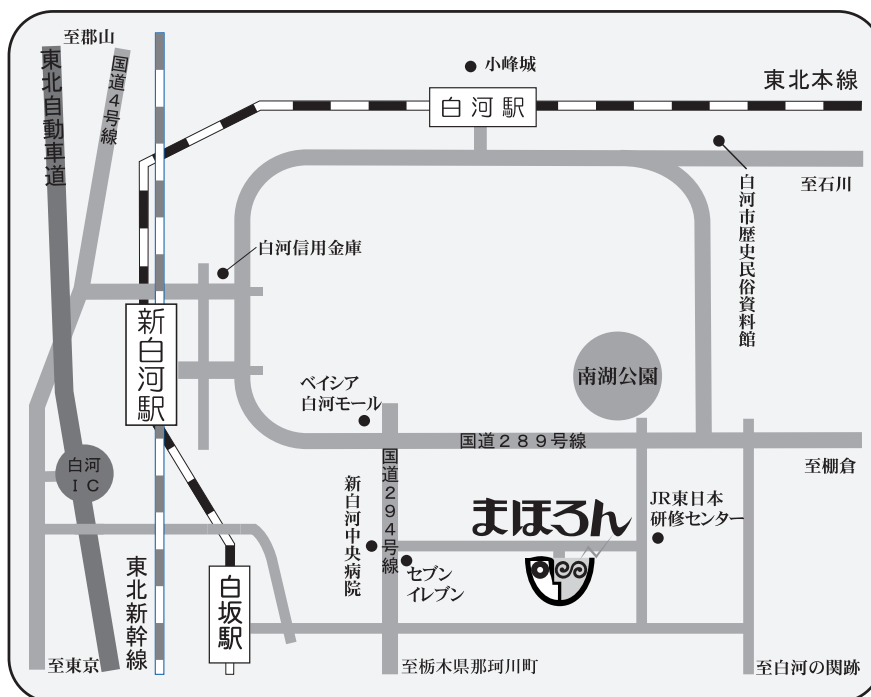
まほろんの利用案内

- 開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合はその翌日、GW・夏休み期間中は開館）
- ・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
- ・ 年末年始（12月28日～1月4日）
- 入 館 料 ・ 無料
- 交通案内 ・ JR東北本線白河駅、JR東北新

幹線新白河駅から福島交通バス（白坂駅経由白坂、白坂駅行き）まほろんバス停下車

- ・ JRバス（棚倉行き）南湖公園下車 25 分
- ・ 東北自動車道白河 I.C から車で 20 分

そ の 他 ・ 屋内・屋外に多目的トイレを備えています。車いす・ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館

年報 2010

平成 23 年 2 月 25 発行

編集・発行 （財）福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館

〒 961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075

<http://www.mahoron.fks.ed.jp/>
